

師崎^{もろさき}図幅地域は 知多半島の南部に位置し 伊勢湾と知多湾に囲まれた地域です。半島先端にある師崎港は かつて尾張藩水軍の根拠地であり 漁港としても知られた所ですが 今では対岸の伊良湖畔にフェリーボートが通じ 三河湾国定公園の観光の一拠点となっています。

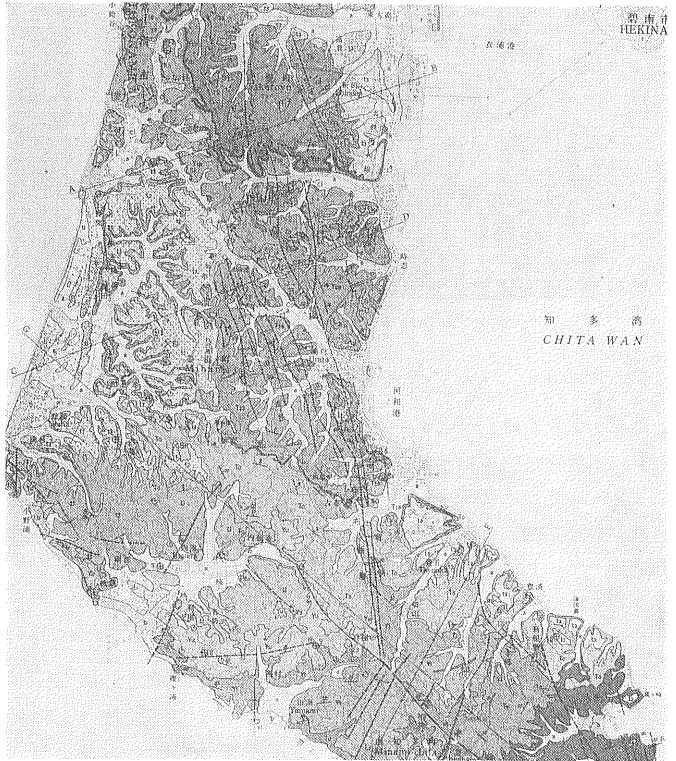
地域西岸の美浜町野間は 平治の乱に敗れた源義朝が悲業の最後を遂げた史跡の地で 地形図にも義朝墓と明記されています。

本図幅地域は 主として新第三系～第四系の堆積岩からなっています。基盤の領家帯花崗岩類は 地域東南部の海上に点在する島に見られるだけです。

瀬戸内中新統に属する師崎層群は 地城南端部に分布し 下部より日間賀累層・豊浜累層・山海累層・内海累層に区分されます。本報告にはそれぞれの地層について 層序関係 岩相と化石 時代及び対比等が詳しく述べられています。師崎層群は古くから軟体動物化石などを産出することで有名です。化石については 従来多くの研究報告がありますが 本報告では比較的最近の報告に基づいて 軟体動物化石の他 浮遊性有孔虫 魚類化石等の産出層準 産地位置図がまとめて示されています。

師崎層群の分布地域の北部には 東海層群が広く分布し 北に隣接する「半田」図幅地域に連続しています。東海層群は中新世後期～更新世前期に 伊勢湾周辺地域にわたって存在した東海湖と呼ばれる湖沼の堆積物であります。従来 常滑層群と呼ばれていましたが 本報告では東海層群の名称を用いました。同層群は下部より豊丘累層 常滑累層に区分され 各累層の層序関係 岩相 年代火山灰層等について本報告で詳しく述べられています。

半島中央部には 南知多道路(有料)が通じ 南端の師崎付近まで名古屋の中心部から約1時間で結ばれ かつて陸の孤島といわれたこの地域も 交通の便が良くなりました。代表的な巡検コースとしては 乙方～初神～豊浜～小佐 古布～岩屋～磯ヶ浦 河和～南知多インターチェンジ～内福寺 河和～青



山池～野間 河和～上野間などがあげられます。豊浜の初神断層や小佐の砂岩脈は一見に値します。図幅北部の新田の谷を西に入ると更新統武豊層の好露頭があり 東海層群中の重要な鍵層である大谷火山灰層は 原田西方の県道沿いで観察するとよいでしょう。

本図幅の刊行により 知多半島の地質図幅は 全部揃ったこととなります。半島北部の「半田」及び「名古屋南部」の地質図幅(昭和61年発行)をも併せて読まれることをお勧めします。

 5万分の1地質図幅の新刊
 師崎
 MOROZAKI
 5万分の1地質図幅 地域地質研究報告

著者 近藤善教・木村一朗
 発行 工業技術院 地質調査所
 取扱先 東京地学協会 (03) 261-0809 262-1401
 そのほか全国主要書店
 販売価格 2,400円

地質ニュース	第40号	12月号
昭和62年12月1日	定価 ¥ 630	〒実費
編集	発行	
集	工業技術院地質調査所	
発行人	林久雄	
発行所	株式会社実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	〒102	
	Tel. (03)265-0951(代表)	
	振替口座 東京1-32466	
総発売元	株式会社実業公報社	
	出版事業部	